

サマリー

中国の石炭需給動向

戦略・産業ユニット 電力・ガス・石炭グループ 佐川 篤男・小泉 光市・横越 久樹

中国のエネルギー需要は急速な経済発展に伴い急増し、一次エネルギー消費量は1993年以降、米国に次ぐ世界第2位の座を占めている。石炭は自国で自給できるエネルギーとして一次エネルギー消費の70%を占め、2007年には25億トンを超える石炭が消費された。今後、一次エネルギー消費における石炭のシェアは次第に低下していくと予測されているが、石炭を中心とした一次エネルギー消費構造は継続され、石炭が中国の一次エネルギーの主役の座を他に譲ることはないと考えられる。

石炭消費量は2000年代に入り急増しており、2003年以降、対前年比で2億トンを上回る増加を続けている。この消費量の増加を賄うために国内石炭生産の拡大が押し進められている。なお、石炭輸入量は消費量の2%に満たないが増加傾向にあり、石炭輸出量は2003年をピークに減少傾向にある。

中国の石炭需要は今後も拡大が続き、その需要を満たすように国内生産も拡大していくことが予想される。しかし、2010年を過ぎる頃には国内生産量と国内消費量のギャップ(=生産量-消費量)はマイナスの値をとり、その絶対値は大きくなると予測される。

本報告では、これまでの中国の石炭需給の動向について整理し、今後の見通しについて検討している。

お問い合わせ：report@tky.iecej.or.jp